

小学校における情報リテラシー教育実践授業

Practice lesson of information literacy education in elementary school

黒田 勉

Tsutomu KURODA

香川大学教育学部

Faculty of Education, KAGAWA University

Email: kuroda@ed.kagawa-u.ac.jp

あらまし：本発表では、情報活用能力と情報モラルの向上を目指した実践授業を行い、その内容がどれくらい身についたかをアンケートを用いて評価を行った。このアンケートでは、授業前と授業後の同じ項目の質問を評価できるように、表裏に同じ質問項目を設定し記入させ、授業内容は「チャットの体験」「携帯電話の利用方法」「情報の見極め」の3つである。これらの授業を行い、評価をした結果、情報活用能力の理解がより深まったことが示された。

キーワード：情報リテラシー教育、ITC、情報モラル、両面授業評価用紙

1. はじめに

小学校での情報教育は、文部科学省の学習指導要領にもあるように、各教科学習の内容に応じた「情報活用能力」を育てていかなければならない(1)。また、文部科学省での「情報活用能力調査(平成24年度～)」が行われるなど、具体的な授業の検討が求められている(2)。

本報文では、情報機器の操作や情報通信ネットワークの利便性などの「情報活用能力」の向上を図るために、香川大学教育学部附属高松小学校6年生の情報教育の中で、どのような教材やテーマを用いて授業を行えばよいかを3回の総合学習の時間の授業から検討する。また同時に、情報機器を利用するときに必要な情報モラルに関する授業内容も検討する。

2. 授業を受ける児童と実践の課題

実践授業を行う前に、対象となる6年生108名(男子50名、女子58名)に予め情報機器利用に関する簡単な事前アンケートを行った結果、授業での課題は以下に示すものとなった。

- ・ 一年前の実践を活用できる児童は3割
- ・ 授業で使用する単語はよく記憶に残る

- ・ 自分用の携帯電話を持つ児童は6割強
- ・ インターネットはホームページ閲覧、ゲームをする場所と認識している
- ・ ホームページ作成、プロフ、ブログ開設等で情報発信する児童は少数

このような課題を踏まえ、既習の内容の復習を含めた情報スキル並びに、情報モラル面の意識の向上を同時に図っていく必要があり、これらの項目を総合して学習する「チャットの体験」「携帯電話の利用方法」「正しい情報の見極め」の3種類の授業を計画し実践を行うこととした。

3. 実践授業とその評価方法

3. 1. 実践授業内容 実践授業は、「チャットの体験」「携帯電話」「インターネットにある情報の見極め方」をテーマとし、3つの内容で行った。時期は、6学年後期後半の12月から2月で、卒業を控え、これまでの学習・生活の振り返りを行い、情報化社会を生きる力の向上を目指したものである。初回と2回目は6学年全3クラス108名、103名、3回目は時間割の関係から1クラス37名であった。

初回のチャット体験授業では、チャットは文字

での即時会話であり、かつ記入(発言)内容が記録されるため、相手の気持ちを考えた、秩序ある記入を行うこと、なりすまし等の被害に合わないための防止策の 2 つを柱として学習させた。この実践により、チャットの利便性と問題点に気付かせ、注意点を考えさせた。質問項目を図 1 に示し、授業前後に回答させた。チャットの経験がある児童は、108 名中 19 名であった。

「チャットを使った授業」のアンケート (授業前)

このアンケートはみなさんがパソコンやインターネットのことをどれくらい知っているのかを調べるものです。このアンケートの結果は大学の卒業研究で使用するさせていただきます。

それぞれの質問について、あてはまる答えのアルファベットに○をつけてください。() には対応した問題の回答を書いてください。

あてはまる性別に○をつけて下さい 男 ・ 女

1 キーボードを使って漢字やひらがなを入力することができますか？
A はい B いいえ

2 今までにチャットをしたことがありますか？
A はい B いいえ

3 チャットとはどういうものですか？
例：○○を使って○○と○○するもの など
()
A わからない B わからない

4 チャットの便利なところはどこですか？
()
A B わからない

5 チャットの不便なところはどこですか？
()
A B わからない

6 チャットによって、どのような事件や犯罪が起こると思いますか？
()
A B わからない

7 チャット上に書き込む時、どのようなことに気をつけますか？
()
A B わからない

8 「こんにちは、あなたと同じクラスの○○です。年賀状を送りたいので、住所を教えて下さい」とチャット上に書き込みがありました。あなたはその後どうしますか？ 例：～～と入力する。

図 1 授業アンケート例(チャット体験)

2 回目の携帯電話の利用方法では、携帯電話を持ち始める中学校入学を前にした小学校 6 年生の後半で正しい知識・技能を身に付けさせるものである。授業では、携帯電話の持つ利便性(長所)を知らせると共に、陰に隠れた側面(短所)に気付かせることを目的とした。そして、これまで学習してきた情報に関する知識を活用し、携帯電話特有の短所・長所を理解させた。質問項目は、「携帯電話の特徴」、「長所」「短所」、「携帯電話に関する事件や事故」、「利用上の注意点」とした。なお、授業を受けた児童のうち、63 名が携帯電話を所有たと回答した。

3 回目の正しい情報の見極めに関しても、効果が認められた。

3. 2. 授業の評価 図 1 に示すシートを表面と裏面を用いて、授業開始時と授業終了時に記入させた。この方法の特徴は、回答者の氏名などの

個人情報を出さず、また、通し番号等の指標を用いることなく、回答者の同一性が保持できることである。

授業の評価は、授業で理解が深まった回答(A:意識変化)、授業前と授業後の理解が同じ回答(B:わかる)、授業前はわからなかったが、授業を聞くことで理解できた回答(C:新たに習得)、授業後もわからないままの回答(D:わからない)の 4 段階とし、A、C の該当者が効果があったことになり、これらの回答をした児童の増加を図らなければならない。

その結果、チャットに関しての理解は図 2、携帯電話の特徴に関しての理解は図 3 に示す効果が得られたが、授業を受けても、「わからない」とした児童が 3 割ほど(34 名)残っており、携帯電話利用方法の継続した啓発が必要である。

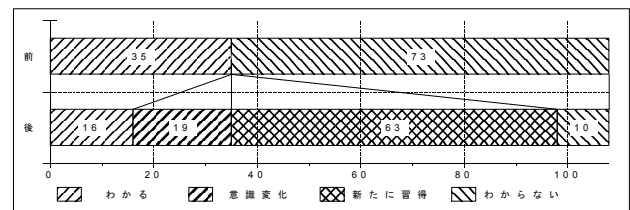


図 2 チャットの特徴に関する理解の変化

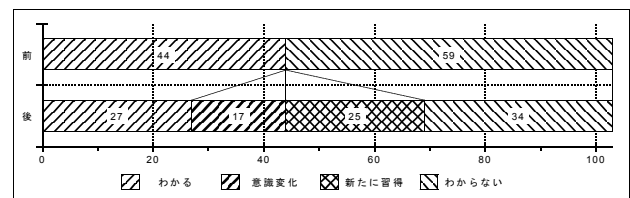


図 3 携帯電話の特徴に関する理解の変化

4. おわりに

本授業では、児童の意識の向上が見られ、最低限の目的は達成できたといえる。また、表裏一体のアンケートシートを用いることで、個人情報を漏らすことなく、同一性を持たせた授業評価を行うことができた。

参考文献

- (1) 文部科学省学習指導要領
- (2) 文部科学省、情報活用能力調査に関する協力者会議配付資料、2012